

月影



第72号

思い込みが
道を閉ざす



令和三年十月一日発行
浄土宗西山禅林寺派
常林院

周りが良く言えば
良く見える

周りが悪く言えば
悪く見える

思い込みは
真実を見失う

偏^{かたよ}らない心が
真実を明^{あき}らかにする

開宗八五〇年

法然上人の生涯



【九】

大原談義



お念仏の広まり

当時の世は、戦争、大火、大地震や飢饉により、庶民にとって「死」は、目の前にある恐怖でした。「煩惱を断ち切れない一般の庶民でも、お念仏を称えれば必ず阿弥陀様が極楽浄土へ導いてくださる」という法然上人の教えは、死と隣り合わせの日々を生きる人々に受け入れられていきました。

仏教界の反応

吉水で布教を初めて十年が経ち、京都中に法然上人の教えの評判は高まっていきました。

しかし、それに伴い既成教団から、お念仏という新しい教えに対して問題視する声が上がりました。

法談の申し入れ

そんな折、後に天台座主となる顕真から法然上人に法談（教えについての討論会）の申し入れがありました。かつて顕真は法然上人と面談したことがあり、改めて法然上

人の教えを請いたいと書き送ってきたのです。

大原の勝林院

こうして一一八六年の秋。大原の勝林院にて、名だたる学僧と門人たち、約三百人の聴衆が集う討論会が行われました。これを「大原談義（大原問答）」といいます。

念仏の教えとはどのような教えなのか、激しい問答が一昼夜にわたって続いたそうです。

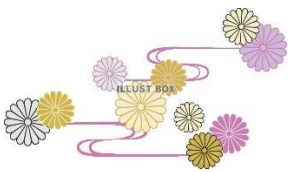
法然上人は、

「これまでの諸宗の教えは非常に優れたものです。しかし、私のように修行もままならない愚かな者

は悟りを開くことはできません。だから阿弥陀仏にすがり、お念仏を称えて浄土へ往生する道を選んだのです」

自らの考えを説く法然上人の言葉に聴衆の多くは心服し、顕真は本尊の周りを声高らかにお念仏を称えて回り出したそうです。呼応した聴衆もお念仏を称え、三日三晩にわたって大原の地に響き渡ったといいます。

（つづく）



仏事と

作法

葬儀式(三)



通夜

通夜は、もともと故人を葬る前に、親族や親しい知人が、夜通しその人を見守り、最後の夜を共にすることを意味しました。



通夜の意義

通夜の起源は、お釈迦さまが入滅されたとき、悲しんだ弟子たちが、お釈迦さまを見守りながら、死後七日間、お釈迦さまがお説きになった教えを夜通しお互いに聞き合ったという故事によるものです。

したがって、本来、通夜とは故人の成仏を祈ることではなく、集まった親しい人々が故人を偲び、思い出話を語り合うことでした。

現代の通夜

時代が移り変わり、通夜に僧侶が招かれ読経す

るようになりました。

通夜では、僧侶の読経が始まると、親族や会葬者が順次お焼香をします。通夜が終わると、故人と最後の食事をするという意味で「通夜ぶるまい」を行う地域もあります。

夜伽

弔問客が帰ってから、親族が交代で故人を守る習慣は見られ、「夜伽(徹夜して語り合う意)」と称して、明朝まで共に過ごし、ろうそくやお線香を絶やささないようにして、故人を見守るのです。

守り刀

故人の胸元に置く短い刀を「守り刀」といいます。



これは、故人を魔物などから守る魔除けの役割があります。また、「猫よけ」として守り刀を置くという説もあります。猫は憑き物などの類とされていたため、猫が嫌がる光るもの(刀)を置いていたそうです。

ちなみに、守り刀を置かない宗派もあります。



彩寺記



塀の耐震工事

当寺も現在の建物が五十年以上経ち、補修が必要な箇所が色々出てきました。

墓地の塀も老朽化が激しく、補修が必要となりました。総代会、町内役員会で協議し、補修することが決まり工事を開始しました。

耐震補強をした塀は、以前よりも安全性が高まり安心です。

お寺は皆様に支えられて維持されています。ご理解ご協力ありがとうございます。



工事後



工事前

雑記抄 く北枕く

「北枕で寝ると縁起が悪い」昔からいわれていました。しかし、インド人は北枕で寝ているそうです。▽インドでは北に理想の国があり、南に死の国があると考えられており、インド人にとって頭を北に向けて寝ることは生活習慣なのです。▽「涅槃経」というお経にお釈迦さまがご入滅されるシーンが記されています。「お釈迦さまは頭を北に向けて、顔を西に向け、右のわき腹を下に向けて休まれました」▽この文章を読んだ日本の仏教学者が、頭

を北に向けて寝るのは、人が亡くなる時の寝方だと勘違いして日本に伝えたのかもしれない。実はお釈迦さまも日ごろから北枕で寝ておられ、亡くなる時もそうだったのかもしれない。▽現在、日本で人が亡くなると頭を北にして寝かせるのは、お釈迦さまにならって北枕にします。▽「友引」「中陰の三月越し」など、縁起が悪いと言われるものは、実は誤解や語呂合わせなど、根拠がないことが多いのです。それでも人は「縁起が悪い」といわれるものは、できるだけ避けたいと思うのです。